

## 11 月度木曜例会 (2008/11/06)

10 月度木曜例会に引き続き Cuba の画家、ERNEST さんです。タイトルは *Mankind's search for god and the religion in Cuba*。大変、迫力のある内容でした。



.昔むかし、Cuba には、Siboneyes と Taino という部族が、農業と漁業主体の生活をし、自然の神 Animism を信仰していた。例えば水の神、太陽の神などで言うなれば精神主義 Espritismo de cordon である。当時、キリスト教の普及と交易の拡大を目指していたスペインのイサベラ女王にコロンブスの新大陸発見の航海計画が認められ、1492年にアメリカ大陸を発見、金 銀を求めて侵略を進めスペインは莫大な富を得た。Cuba も同様に侵略された。まず東側の Santiago de Cuba に教会を、次に西側に尼僧院 Convent, Monastery を建設した。当時 カトリック信仰の名の下、国を支配する道具として使っていた。

Cuba の土地は肥沃で果物、野菜などが豊富に出来ていた。そこへ新しい支配者スペインがサトウキビ Sugar cane を栽培、その収穫には大変手間がかかるため、アフリカから大量の黒人奴隷を連れてきた。ナイジェリアやコンゴからであった。

彼等をサトウキビの生産に従事させ、過酷な労働のなかでスペイン語を教え込んでいった。彼らは正式にスペイン語を習ったのでないので、かなり判り難い人たちが多い。

下の写真 Cathedral in Santiago de Cuba



Cathedral of Saint Christopher of Havana



Cuba 革命以前はカトリックを強制的に唯一の宗教として押し進めたため、原住民であるインデオを始め奴隷として連れてこられた黒人は、自分達の信仰を捨てる事になる。しかし、黒人たちは家にマリア像や十字架等をおいて、あたかもカトリック教徒を装い、自分達の先祖の神オリシヤスを称えていた。彼らはそれらの宗教儀式で太鼓を使ってリズムをとり、踊り、互いに交流を持ちながら、Cuba オリジナルの混合宗教、**Santeria** で信仰を保った。**Santeria** はナイジェリアの **Yoruba** 族が持ち込んだ信仰、多神教が起源である。カトリック教が諸教混合 **Syncretism** に影響され、**Santeria** を生み出したのである。

12月17日は **BENBÈ** の祭りでは真夜中まで地酒ロンを飲み交わし酔っ払い、12時過ぎにはアフリカの踊りを延々と続ける。その響きは、**Human Earthquake** と言われるくらい、魂に訴えるもので、交霊術 **Espiritud de cordon** と言える。

中南米ではシャーマン **Chamàn** 悪魔祓いをする祈祷師が現在も残っているが、Cuba では聖人像のご利益で治療する祈祷師 **Santero** が運命を占う原始宗教である。今でも存在し、信心深い人は身分、職業に関係なく、海外からも運命を占ってもらいに訪れる人もいる。

さてスペイン人が持ち込んだカトリックの教義は、三位一体 **Trinity** 神、キリスト、神霊を一体とみるものであるが、当時、聖書はラテン語を学んだ聖職者だけが読むことが出来、一般人にはお経のように理解できないものであった。その後 Cuba 独立、革命、その後米国との対立などで政治的、経済的に厳しい時代が続いた。

Cuba 革命後、カストロによる社会主義国家建設、農地改革、米国企業の排除等で徴兵をするが、エホバの証人は共産主義のもとでは理解されず、兵役義務拒否、輸血をしないということから一箇所に集められ隔離された。

.

1998年1月ローマ法王パブロ二世が訪れ自由の風 **Breeze of freedom** がもたらされました。また Cuba 社会の門戸を開く必要性も説かれた結果、国内の移動が自由になり、海外からの招待状があれば留学、仕事などで海外に行くことも認められるようになったとの事。**ERNEST** は Cuba の画家グループの一員であり欧米にはかなりの画家が移住していますが、日本への画家移住は **ERNEST** が第一号だそうです、彼って歴史的な人物だったのですね。

パスポートの取得費用も以前は50ドルだったのに、今は100ドルとなっているそうで所得水準からすると少し高いそうです。次回はどんな内容について話してくれるのでしょうか、楽しみです。